

英語

東京大学 (前期) 1/3

<全体分析>

試験時間

120分

解答形式

記述式とマーク式の併用。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

- ・読解総合、英作文、聞き取り、文法・語法、英文解釈の各分野から出題されている。
- ・5の記述式設問で和訳問題が出題された。またマーク式設問では、内容一致のほか、語句や文の意味を問う設問が出題され、昨年度まで出題が続いていた共通選択肢による空所補充および語句整序問題が姿を消した。

その他トピックス

英語

東京大学（前期） 2/3

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
1(A)	読解総合	「揺らぎゆく死の定義」 (322 words)	英文の内容を 70～80 字で要約する問題。本文は内容的には決して難しくはないが、論点を取捨選択し、整理した形で制限字数以内に答案をまとめるのにやや苦勞する。 《出典》 Nancy Shute, “Where do we draw the line between life and death?,” <i>ScienceNews</i> (https://www.sciencenews.org) (September 6, 2020)	標準
1(B)	読解総合	「人間固有の言語の持つ特徴」 (914words (本文 801 words+空所 9 words+選択肢 104 words))	2024 年度同様、文補充問題（ア）と語句整序問題（イ）が出題された。昨年度と同じく（ア）は 5 箇所、ダミー選択肢は 1 つ。（イ）の語数は 9 語（並べ替える要素の数は 8）で、昨年度より減少。難易度は標準的。 《出典》 Geoffrey K. Pullum, <i>Linguistics: Why It Matters</i> , Polity Press (2018)	標準
2(A)	英作文	意見論述	「意見を言わないということは同意することを意味する」という主張に対する考えを、理由を添えて、60～80 語の英語で書くことが求められた。	標準
2(B)	英作文	和文英訳	昨年度は 2 つの段落から成る文章中の 2 文（119 字）の英訳が求められたが、今年度は 3 つの段落から成る文章中の 1 文（101 字）の英訳が求められた。一部、表現を工夫しないとイケない箇所があったが、とりたてて難しいものではなかった。 《出典》 坂口恭平『モバイルハウス 三万円で家をつくる』を一部改変	標準
3(A)	聞き取り	「蝶の長距離移動」 (534 words)	テーマについて、話者の経験も交えて解説した文章を素材とした問題。 《出典》 Isis Howard and Kailee Slusser, “5 Monarch Migration Facts,” <i>Bee City USA</i> , (https://beecityusa.org) (October 23, 2023) Emily Wrubel, “Where Did All Our Monarchs Go? Witnessing the Magic at Mexico’s Monarch Butterfly Reserves,” <i>Monarch Joint Venture</i> , (https://monarchjointventure.org) (May 22, 2024)	標準
3(B)	聞き取り	「蝶に関するさまざまな話」 (521 words)	蝶の専門家をゲストに迎えた架空のラジオ番組の一部を素材とした問題。	標準

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
3(C)	聞き取り	「都市の植生」 (516 words)	テーマについての講義を素材とした問題。全5問中、「講義の内容と一致する（あるいは一致しない）選択肢を選ぶ」問題が3問、「講義の趣旨」を選ぶ問題が1問出題された。 《出典》 James Dinneen, “The trees in our cities are dying --- a sick microbiome may be to blame,” <i>NewScientist</i> , (https://www.newscientist.com) (October 17, 2023)	標準
4(A)	文法・語法	正誤問題 『ゲームのルール』と社会との関わり (462 words)	2019年度から正誤問題の出題が続いている。英文は抽象度が高くやや読みづらいが、含まれている「誤り」は、おおむね標準的な文法・語法の事項にかかわるもの。 《出典》 Jaakko Stenros and Markus Montola, <i>The Rule Book: The Building Blocks of Games</i> , The MIT Press (2024)	標準
4(B)	英文解釈	下線部和訳 「検閲の起源」 (268 words)	下線部は3つ。おおむね文構造は把握しやすいが、文脈の理解がないと正しく訳せない部分が含まれていた。 《出典》 Robert Atwan, “Foreword,” <i>The Best American Essays 2023</i> , Mariner Books	標準
5	読解総合	「病気の『私』が経験してきた Ramadan」 (892 words)	3年連続でエッセイ色の強い素材からの出題となった。記述式の設問としては、説明問題が1問、和訳が1問、語補充が1問出題された。 《出典》 Maysoon Zayid, “Ramadan: Why I gave up on fasting,” <i>BBC</i> , (https://www.bbc.com) (July 25, 2013)	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- 近年、東大の出題形式はほぼ変化がない。よって、これまでに出版された問題に取り組み、東大で出題される形式に対応できるようにしておく必要がある。東大英語の攻略には全般的に以下のような対策をとっておかなければならない。
- 読解に関しては、主に「文脈把握力」が要求されている。スピーディーに英文を読み、必要な情報を把握したり、内容をまとめたりする演習が有効である。また、日本語表現能力を高めることも怠ってはならない。
- 作文に関しては、基本的な知識の正確な運用が求められている。与えられたテーマについて自分の考えなどを正しく表現できるようにしておこう。また、日本語を正確に英訳する演習も積んでおこう。できれば、添削指導を受けるとよい。
- リスニングに関しては、書き取りの練習なども取り入れ、基本的な聞き取り能力を養うことに加え、過去問演習を通して情報を整理しながら話の展開をつかむ力を養うようにしよう。